



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



2026年9月 第51号



IRPA理事会は、AOCRP-7の主催者として温かく迎えてくださった中国放射線防護学会との会談をもって、北京での3日間の業務会合を締めくくりました。

本号の内容:

編集者からのメッセージ - いよいよ大会シーズン到来!	- 2
ドイツ-スイス放射線防護学会創立60周年を記念して	- 4
福島事故から15年: 放射線リスクコミュニケーションの教訓の次世代への継承・共有	- 10
ボランティア募集: IRPA「公衆理解」タスクグループ (2026-2028)	- 13
Women in Radiation (WiR: 放射線分野の女性) 憲章の最新情報	- 14
若手世代ネットワーク (YGN) からの最新情報	- 15
モンリオール基金に関する最新情報	- 16
今後のイベント	- 17

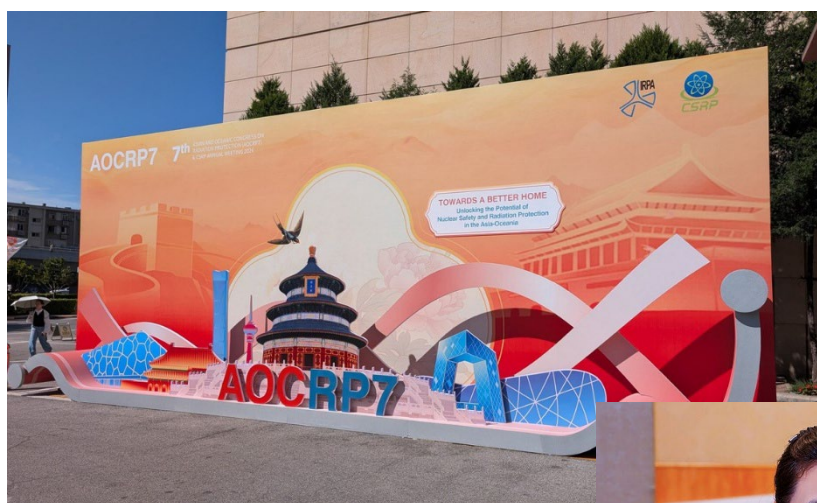
翻訳: 北原 雅典、編集: 藤田 博喜、監修: 桧垣 正吾 この“IRPA 会報”の日本語訳は、IRPA の公式な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証しません。またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Masanori KITAHARA, edited by Hiroki FUJITA and reviewed by Shogo HIGAKI. This Japanese translation of “IRPA Bulletin” is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

編集者からのメッセージ

地域大会シーズンが本格化しています！

一年で最も素晴らしい季節がやってきました！ いや、今期のIRPA地域大会は2026年と2027年の2年にまたがるので、「一年」ではなく「二年」と言うべきかもしれません。前号では、英国リバプールで開催された欧州地域大会の話題をいくつかご紹介しました。今回は、中国・北京で開催された第7回アジア・オセアニア放射線防護会議に参加しました。主催者の中国放射線防護学会は総力を挙げて準備に取り組みました。ホテルの外に設置された巨大な会議看板をご覧ください、その様子がお分かりになるでしょう。これは会場各所に設置された多くの看板の一つであり、会議全体の設営の様子の一端を示しています。



編集者からのメッセージ

地域大会シーズンが本格化しています！

本会議では、放射線測定・線量計測、生物影響、環境モニタリング、医療応用、緊急時対応など、放射線防護のあらゆる分野にわたるテーマが取り上げられました。また、IRPAが特に重視するグループ、とりわけ若手世代ネットワークに焦点を当てた特別セッションも開催されました。さらに、Women in Radiation（放射線分野の女性）グループも会期中の複数のセッションに参加し、メンバーは、リーダーシップの発揮、AIの活用、協働の推進、能力構築および継続的なキャリア形成を通じて、女性のエンパワーメントと放射線防護の発展を推進するという誓約に改めて署名しました。

複数の講演では、現在誰もが強い関心を寄せるテーマ、すなわちICRPによる進行中の放射線防護体系の見直しと、将来の改訂勧告の公表が直接的または間接的に取り上げられました。北京では2027年ICRPシンポジウムも開催されるため、これらの議論は来年も同じ場所で続けられます。

AOCRP-7は盛会のうちに終了しましたが、今後も各国の同僚と交流できる機会が数多く控えています。



コロンビアのメデジンで開催されるラテンアメリカ地域大会は、わずか数週間後に迫っており（訳注：2026年10月18～22日に開催済み）、アフリカ地域大会は2027年2月に開催されます。これらの会議で皆様とお会いできることを楽しみにしています。そして、もしお会いできなくても、2028年にスペイン・バレンシアで開催されるIRPA17では、きっと皆様にお会いできるでしょう！



ドイツ-スイス放射線防護学会 創立60周年を記念して

ドイツ-スイス放射線防護学会（FS）創立60周年を記
念して－放射線防護における60年の歩みと貢献－



著者:

Martina Froning氏: ドイツ-スイス放射線防護学会（FS）会長
IRPA17バレンシア大会（2028年）国際会議プログラム委員会（ICPC）委員

Renate Czarwinski氏: ドイツ-スイス放射線防護学会（FS）理事
IRPA17バレンシア大会（2028年）国際会議組織委員会（ICOC）委員

Bärbl Maushart氏: ドイツ-スイス放射線防護学会（FS）機関誌『StrahlenschutzPRAXIS』編集委員

会員ならびに関係者の皆様

このたび、自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。私は、Martina Froningと申します。IRPAの創設メンバーの一つである [ドイツ-スイス放射線防護学会](#)（FS）の現会長を務めております。

本年、FSは創立60周年を迎えます。この節目にあたり、創設から現在までの本学会の歩みを皆様と共有できることを大変嬉しく思います。

FSの60年は、IRPAを通じた放射線防護分野における国際協力の60年でもあります。

これからも、人々と環境のために、世界中で効果的な放射線防護を推進していきましょう。

敬具, Martina Froning



ドイツ・スイス放射線防護学会 創立60周年を記念して



ドイツ・スイス放射線防護学会

Fachverband für Strahlenschutz e.V. (FS)



放射線防護における専門性の実践

Froning M., Bothe M., Czarwinski R., Feinhals J., Walther C.
ドイツ・スイス放射線防護学会 (FS) / ドイツ・ヨルク

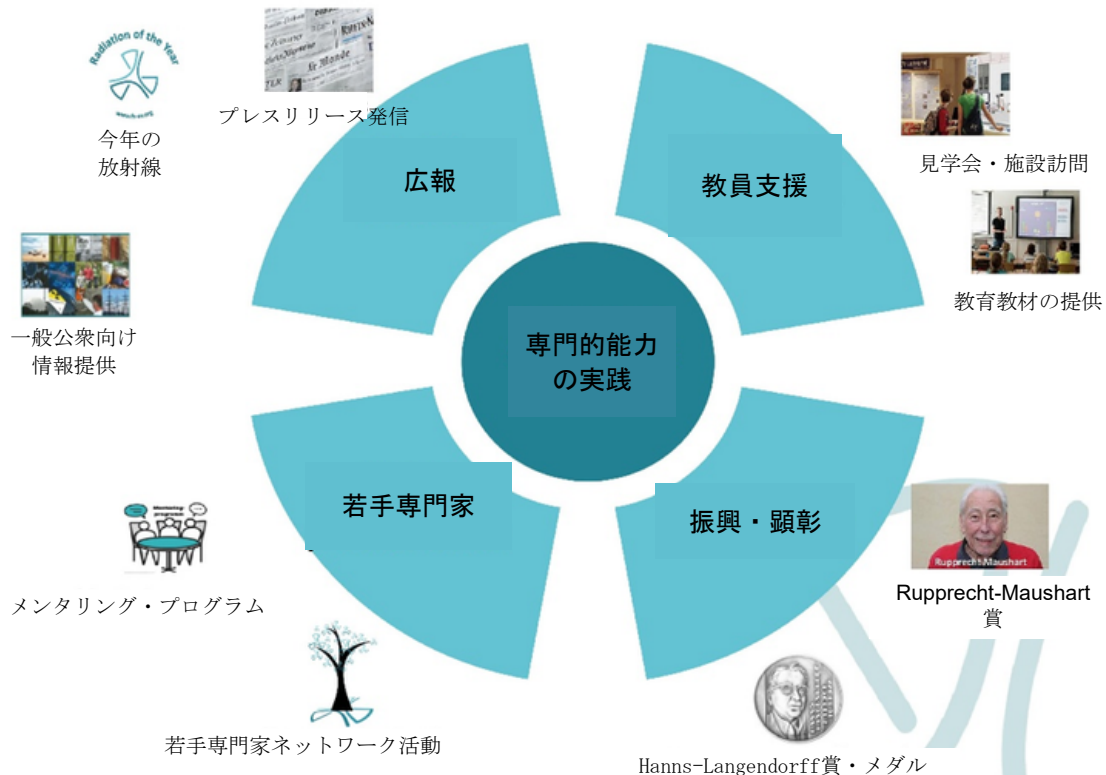
効果的な放射線防護には、研究機関、産業界および行政機関にまたがる幅広い基盤に根ざした

- 専門的知識
- 幅広い知識
- 技能および能力

が必要です。

ドイツ・スイス放射線防護学会 (FS) は、若い世代に対する放射能および放射線防護の教育を特に重視しています。

また、在学中や職場での専門知識の習得、緊急時対応業務に対する放射線防護、ワーキンググループにおける知識伝承などにも積極的に貢献しています。



アウトリーチ活動

- 他のIRPA関連学会との協力を含む年次大会の開催
- 最新情報を掲載したウェブサイトの運営
- 14の専門ワーキンググループにおける情報交換
- 啓発冊子「StrahlenschutzKOMPAKT」の発行
- 機関誌「StrahlenschutzPRAXIS」の発行
- 年次放射線測定FSセミナーの開催

詳細情報：

www.fs-ev.org



連絡先：

fs-gf@fs-ev.org

広報：



ドイツ・スイス放射線防護学会 創立60周年を記念して

ドイツ・スイス放射線防護学会（FS）の歩み

ドイツ・スイス放射線防護学会（FS）は、1966年6月に設立されました。FSの歴史は、国際的な放射線防護の発展および国際放射線防護学会（IRPA）の設立の歴史と密接に結びついています。

欧州域内の協力から国際的な連携への発展

ドイツが関与した放射線防護学会の発展は、まず国際的な枠組みから始まりました。1963年には**欧州放射線防護学会**が設立されました。当時、スイスの**Peter Courvoisier**氏が会長を務め、ドイツの**Rupprecht Maushart**氏が事務総長を務めていました。

放射線防護分野におけるより広範な国際協力の必要性は、ほどなく明らかになりました。これを受けて、米国保健物理学会（HPS）が、放射線防護に関する国際学会の設立に向けた取組を主導しました。

1963年から1964年にかけて、HPS会長のWilliam T. Ham Jr.氏は、「保健物理学の国際化に関する特別委員会」を設置しました。同委員会は、新たな国際放射線防護組織の基本理念、目的および将来構想を策定するための作業部会を設けました。暫定執行委員会のメンバーには、ドイツ連邦共和国（西ドイツ）代表のRupprecht Maushart氏、スイス代表のPeter Courvoisier氏が含まれていました。



IRPA暫定理事会 1964年12月2日、パリ

左から：Halter氏（ベルギー）、Marko氏（カナダ）、Maushart氏（ドイツ連邦共和国〔西ドイツ〕）、Courvoisier氏（スイス）、Duhamel氏（フランス）

この歴史的な会合は、1964年11月30日から12月3日にかけてパリで開催されました。この会合は、後に**国際放射線防護学会（IRPA）**となる、世界各国の放射線防護学会を結集する国際組織の基盤を築きました。

第1回IRPA国際会議および総会は、1966年9月にローマで開催されました。会議の晩餐会は、ローマ中心部のサンタンジェロ城（Castel Sant'Angelo）で催されました。



ドイツ・スイス放射線防護学会 創立60周年を記念して



ローマで開催されたIRPA 1の開会式における公式集合写真。

写真の3列目には、Bärbl Maushart氏、Rupprecht Maushart氏、そしてFS初代会長のHans Kiefer氏の姿を見ることができます。

FSの設立

IRPAの設立に先立つことわずか3か月、ドイツ・スイス放射線防護学会（FS）が設立されました。

1990年の東西ドイツ統一（訳注：ベルリンの壁崩壊が1989年）という政治的に重要な出来事を契機として、FSは旧東ドイツで設立されていた放射線研究・放射線防護協会（VSS）と統合しました。この統合を記念する式典は、1991年にアーヘンで開催されました。

FSは設立当初から、専門家間の交流と協力を重視してきました。放射線防護の各専門分野に特化したワーキンググループが早い段階から設置されました。現在では14のワーキンググループがこの伝統を受け継ぎ、「電離放射線の利用および取扱いにおける安全性の向上」というFS全体の目標を支えています。

ドイツ・スイス放射線防護学会 創立60周年を記念して

現在のFS

現在、FSは約1,400名の会員を擁しており、自然放射線源による被ばくから、技術、医療および研究分野における放射線利用に至るまで、電離放射線および非電離放射線の有害な影響から人々と環境を守る活動に取り組んでいます。FSは、ドイツとスイスの産業界、学术界、医療、行政機関の放射線防護専門家を支援するとともに、経済的利害関係から独立した立場で、専門的かつ中立的な情報を一般公衆に提供しています。

専門グループの活動に加え、FSの一般向け広報活動の柱となっているのが、季刊会員誌

『StrahlenschutzPRAXIS』です。各号では、放射線防護全般に関する知見に加え、特定のテーマに焦点を当てた特集が組まれています。

本誌は、1995年から2011年までRupprecht Maushart氏が編集を担当し、2012年からはBärbl Maushart氏がその役割を引き継いでいます。



2025年2月、ケルンのTÜV MEDIAにおいて開催された編集委員会会議に出席した編集委員会メンバー。
左から、Paul Fischer氏、Susanne Severitt氏、Rainer Gellermann氏、Peter Hill氏、（オンライン参加）Jan-Willem Vahlbruch氏、Bärbl Maushart氏、（オンライン参加）Ekkehard Martini氏、Renate Czarwinski氏、Hansruedi Völkle氏、Martina Froning氏、Sven Nagels氏

ドイツ・スイス放射線防護学会

創立60周年を記念して

ドイツ・スイス放射線防護学会（FS）は、設立以来、ドイツ語圏の放射線防護専門家を代表する主要な組織へと発展してきました。60年にわたる専門知見を基盤として、14の専門ワーキンググループと意欲ある若手専門家（YP）が、社会への情報発信、研究および専門的なガイダンスの分野で重要な成果を上げ続けています。主な活動は以下のとおりです。

- 14の専門ワーキンググループにおける会合等を通じた情報交換
- 季刊会員誌『StrahlenschutzPRAXIS』の発行
- 最新情報を提供するウェブサイトの運営
- 他のIRPA関連学会との協力を含む年次大会の開催
- 放射線防護に関する情報を一般公衆に分かりやすく伝える啓発冊子シリーズ『StrahlenschutzKOMPAKT』の発行
- 放射線防護に関するウェビナーの開催
- 年次放射線測定FSセミナーの開催
- 「今年の放射線」（Radiation of the Year）：放射線に関する一般公衆の認識を高めるため、FSは「今年の放射線」の取組を設け、毎年1種類の放射線を選んでいきます。選定基準としては、その発見の記念年、発見や重要な応用に関わった科学者の生誕の節目、あるいは現在の社会的な出来事や課題などが挙げられます。
- 若手専門家（YP）：学会内で若手会員の利益を代弁・推進する、意欲ある若手FS会員のグループです。IRPA若手世代ネットワークや欧州X-YGN Collaboration Hubなどの国際的なグループに参加しています。

私たちは、60年前に先人たちが築き上げた礎を受け継ぎ、その経験と知識を次世代の放射線防護専門家へ継承していくことに尽力しています。

今後もIRPAおよび関連学会との緊密な協力を継続していくことを楽しみにしています。

最後に

FSの設立以来、IRPA地域大会は、私たちの国際的な学術交流と協力活動を支える重要な基盤となってきました。2030年にドイツ・ドレスデンで開催される次回のIRPA地域大会をFSが主催することとなり、大変嬉しく思います。大会のテーマは「変化する技術環境における放射線防護」です。ドイツより心からのご挨拶を申し上げますとともに、世界各国の放射線防護専門家の皆様をドレスデンにお迎えできることを楽しみにしています。



第8回欧州IRPA地域大会 ドレスデン（ドイツ）
2030年6月3～7日
「変化する技術環境における放射線防護」



福島第一原子力発電所事故から15年：放射線リスクコミュニケーションの教訓の次世代への継承・共有

河野 恭彦氏

日本保健物理学会（JHPS）

国際放射線防護学会（IRPA）若手世代ネットワーク（YGN）リーダーシップ委員会委員長（2023～2026年）

元 日本保健物理学会（JHPS）「暮らしの放射線Q&A活動委員会」副委員長



なぜ福島における放射線リスクコミュニケーションの経験は今なお重要なのか

福島第一原子力発電所事故から15年が経過した今も、放射線防護コミュニティは、21世紀で最も重大な放射線事象の一つから得られた教訓を振り返り続けています。これまで、緊急時対応、環境修復および健康影響評価には多くの関心が寄せられてきましたが、引き続き注目すべき重要なレガシーがもう一つあります。それが放射線リスクコミュニケーションです。福島の経験は、コミュニケーションが放射線防護を支える副次的な活動ではなく、放射線防護そのものに不可欠な要素であることを示しました。

日本保健物理学会（JHPS）は2026年8月、長年にわたり実施してきた一般公衆向けコミュニケーション活動「暮らしの放射線Q&A」の英語版を公開しました。

原子力緊急事態における公衆の懸念に関する貴重な記録

2011年3月の事故後、一般公衆からは、放射線による健康影響、食品の安全性、環境汚染、防護措置、さらには子どもや家族に対する放射線被ばくの影響など、多岐にわたる質問や懸念が寄せられました。これに対応するため、日本保健物理学会（JHPS）の有志が、これらの疑問に答えるオンラインのQ&Aプラットフォームを立ち上げました。

その後、この取組はJHPSの正式な活動へと発展しました。若手研究会の24名の会員の協力のもと、一般公衆から寄せられた1,870件の質問に回答しました。その中から代表的な80件の質問と回答を選定し、書籍として出版しました。さらに、この貴重な経験を国際社会に届けるため、その内容を英訳し、専用ウェブサイトにもまとめ、2026年8月に世界に向けて公開しました。JHPSは、これらの経験を英語で発信することにより、国際的な知識共有を支えとともに、将来の放射線・原子力緊急事態への備えに貢献することを目指しています。このウェブサイトは、放射線防護専門家、リスクコミュニケーション実務者、ならびに放射線に関心を有する一般公衆が、福島から得られた実践的な教訓を探求し、効果的な放射線防護を支えるためのコミュニケーションのあり方を考える機会を提供しています。



福島第一原子力発電所事故から**15年**：放射線リスク
コミュニケーションの教訓の次世代への継承・共有

以下のリンクから日本語版および英語版にアクセスすることができます。

<https://www.jhps.or.jp/cgi-bin/faq/page.cgi>

これらの質問は、将来どのような放射線・原子力緊急事態が発生した場合でも、同様の懸念が生じると考えられるため、今日においてもなお重要な意味を持っています。



JHPSウェブサイト「福島第一原子力発電所事故後の暮らしの放射線Q&A」の日本語版および英語版



福島第一原子力発電所事故から15年：放射線リスクコミュニケーションの教訓の次世代への継承・共有

情報提供から対話へ

福島事故から得られた重要な教訓の一つは、科学的に正確な情報を提供するだけでは、効果的なコミュニケーションは実現できないということでした。福島での経験は、住民や関係者の声に耳を傾けること、不確実性を率直に認識し共有すること、そして影響を受けた地域社会と敬意をもって対話を行うことの重要性を明らかにしました。さらに、福島の実験からは以下のような重要な教訓も得られました。

- コミュニケーションは説明から始めるのではなく、まず相手の声に耳を傾けることから始めるべきである。
- 公衆の関心や懸念が、専門家の優先課題と一致すると決めつけるべきではない。
- 科学的情報は、正確であるとともに、分かりやすく、利用しやすい形で提供されなければならない。
- 不確実性については、オープンかつ透明性をもって伝えるべきである。
- リスクコミュニケーションの経験は、技術的な知識と同様に保存・継承されるべきである。
- 信頼は、継続的かつ相互に尊重し合う対話を通じて時間をかけて初めて築かれるものである。

この新たな英語版ウェブサイトは、長年にわたる言語の隔たりを埋める助けとなり、放射線防護、リスクコミュニケーション、および緊急時への備えに関する国際的な知識共有を支えます。

今後に向けて

国際的な放射線防護コミュニティが将来の放射線・原子力緊急事態に備える中、福島の実験から得られた教訓は今なお極めて重要な意味を持っています。これらの経験を国や世代を超えて共有することは、貴重な知識を継承し、将来に活用していくことに繋がります。福島の実験から得られる不変の教訓は、効果的な放射線防護が技術的な能力だけでなく、相手の声に耳を傾け、謙虚に伝え、時間をかけて信頼を築き、次世代がこの取組を継続できるよう育成する力にも支えられているということです。



ボランティア募集：

IRPA「公衆理解」タスクグループ(2026-2028)

放射線とリスクに関する公衆との対話の未来を、ぜひ共に築きましょう！

IRPAは、Peter Bryant教授を議長とする「公衆理解タスクグループ」の2026～2028年を任期とするメンバーとして、意欲あるボランティアを募集しています。

本タスクグループは、IRPAがこれまでに策定してきた指針や成果を基盤として、関連学会および放射線防護専門家が放射線とリスクに関する公衆理解を向上させる取組を支援します。

現在、以下の事項を重点活動として検討しています。

- 放射線とリスクに関するコミュニケーションのための実践的なガイダンスとリソースの開発
- 公衆との対話・参画に関する国際的な経験、事例および良好事例の共有
- 関連学会および放射線防護専門家による公衆との対話・参画活動の支援
- 若年層やより幅広い層との対話・参画を促す革新的なアプローチの検討

具体的な重点課題および成果物については、新たに参加するタスクグループメンバーとの協議を通じて決定されます。

どのような方にご応募いただきたいか？

私たちは、国際的な放射線防護コミュニティから、多様な経験、視点、そして新たなアイデアを持つ方々の参加を歓迎します。

特に若手専門家の皆様の応募を強く期待しています。経験の豊富さだけでなく、意欲と積極的に貢献しようとする姿勢も同様に重要です。

本タスクグループは実働型のグループです。メンバーには、オンライン会議への参加、議論への積極的な貢献、および合意された活動への責任を担うことが求められます。

応募方法

応募者は、所属するIRPA関連学会からの推薦または承認を受ける必要があります。参加を希望される方は、まず所属学協会に連絡し、推薦または承認を得てください。

推薦期限：2026年11月27日

推薦書提出先：p.bryant@liverpool.ac.uk

国際的な協力を通じて、放射線とリスクに関する公衆理解の向上に、ぜひご協力ください。

Peter Bryant 教授、IRPA 公衆理解タスクグループ 議長



Women in Radiation (WiR : 放射線分野の女性)

憲章の最新情報

IRPAの「Women in Radiation (WiR : 放射線分野の女性) 憲章」は、WiRタスクグループによる最近の取組です。本憲章に署名することにより、関連学会は、放射線防護分野におけるジェンダーの公平性と代表性の確保に関する原則を、自らの組織の方針、実践、行動計画および組織文化の中に取り入れることを約束します。

また、本憲章では、各関連学会が自らの状況に応じて具体的な取組内容を設定し、実行を誓約することができる仕組みとなっています。例えば、スペイン放射線防護学会 (SEPR) は最近この憲章に署名し、誓約事項として以下の取組を掲げています。

- SEPR理事会は、「Women in SEPR (SEPRの女性)」イニシアチブの設立をSEPR総会に提案する予定です。その目的は、このグループの認知度と代表として活動する力を最大限に高めることです。
- また、SEPR理事会は、スペインの放射線防護分野における女性の貢献を顕彰する賞の創設について総会に提案する予定です。その目的は、女性専門家をより広く知ってもらい、社会的な評価を高めることです。
- さらにSEPRは、教育・研修計画および各種研修プログラムにおいて、ジェンダーの視点を積極的に取り入れ、特に女性を対象に、女性のために設計された研修機会の充実を図ります。
- 加えて、SEPRは、メンタリング、人的ネットワーク形成および包摂的な参加を促進する取組を支援し、潜在的なジェンダーギャップの把握と継続的なモニタリングを進めます。これにより、具体的な行動につなげるとともに、偏見のない持続可能な専門職環境の構築を推進します。

現在までに、以下の関連学会が本憲章に署名しています。

- 英国放射線防護学会 (SRP、英国)
- スペイン放射線防護学会 (SEPR、スペイン)
- オーストラレーシア放射線防護学会 (ARPS、オーストラリア)

貴学会も、ぜひWiR憲章への参加をご検討ください。理事会に提案し、この素晴らしい取組の一員となっただけであれば幸いです。



北京におけるIRPA若手世代ネットワーク（YGN） の活動

IRPA若手世代ネットワーク（YGN）リーダーシップ委員会 アジア地域のIRPA関連放射線防護学会

2026年9月11日、第7回アジア・オセアニア放射線防護会議（AOCRP-7）の若手世代ネットワーク（YGN）フォーラムが、北京においてハイブリッド形式で開催されました。これにより、アジア・オセアニア地域内外の各国・地域の若手専門家が現地およびオンラインで参加することが可能となりました。この開催形式は、移動や渡航上の制約にかかわらず参加できるようにすることで、参加のしやすさと包摂性を大きく向上させ、より幅広い国際交流とネットワーク形成を促進しました。フォーラムは「若手の英知に火をつけ、放射線防護を前進させる」をテーマとして開催されました。IRPAおよび中国、韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランド、インドなどの各国放射線防護学会から若手代表者が招かれ、各国の最近の活動状況について紹介が行われました。その後、参加者は、「放射線防護分野に若い世代を惹きつける取組」と「各国における放射線防護分野へのAIの活用」の2つの主要なテーマについて活発な議論と意見交換を行いました。



本フォーラムは、中国、日本、韓国、インド、オーストラリアなどの国々における若者の放射線防護への参画に関する貴重な経験を共有する場となるとともに、若手研究者による最新の研究成果の紹介を通じて、放射線防護の更なる強化に向けた方策を提示する機会となりました。発表内容は、放射線検出や核医学へのAIの活用から、福島第一原子力発電所事故から得られた教訓、放射性核種による越境放射線影響の評価、さらには放射線科学に関する公衆への情報発信活動まで、多岐にわたりました。これらの議論を通じて、アジア・太平洋地域の若手専門家が放射線防護分野において取り組んでいる革新的な実践や探求が紹介されました。複数の国の若手代表者が共同で企画・運営した本フォーラムには、様々な研究機関や産業界の組織から専門家が積極的に参加しました。参加者は、放射線防護技術のデジタル化を推進するためのAIの活用などについて活発な意見交換を行い、国境を越えた知識共有と研究協力の促進に大きく貢献しました。

IRPAの支援のもと、本フォーラムは、アジア・太平洋地域の放射線防護分野における若手専門家のための高度な国際交流の場を提供しています。また、エネルギー生産、医療、農業、アイソトープの製造・利用、産業界および研究機関など、放射線防護に関わる多様な分野において将来を担う人材の育成・確保に寄与し、世界の放射線防護における協働と革新的な発展の促進に積極的な役割を果たしています。



モントリオール基金に関する最新情報

Kevin Nelson氏のチャレンジ：

6か月前、本会報において、IRPA16大会長であり現IRPA理事会メンバーでもあるKevin Nelson氏が、放射線防護コミュニティに対して個人的なチャレンジを提案したことをご紹介しました。その内容は、2026年中にモントリオール基金へ寄せられた個人からの寄付について、総額4,000米ドルを上限として同額を拠出する（マッチング寄付を行う）というものです。

これまでに、世界各国の放射線防護専門家から3,080米ドルの寄付がモントリオール基金に寄せられています。しかし、目標額にはまだ達していません。皆様からのご寄付は引き続きKevin氏のマッチング寄付の対象となります。ぜひこの寛大な申し出に応え、発展途上国の若手放射線防護専門家が国際的な放射線防護コミュニティで良いスタートを切れるよう支援しましょう。



皆様も「ネルソン・チャレンジ」に応えませんか？ぜひ[オンラインでご寄付](#)いただき、IRPAの若手放射線防護専門家への支援にご協力ください。

IRPA17によるモントリオール基金支援の取組

IRPA17の組織委員会は、参加費を全額お支払いいただいた正規参加登録者1名につき10ユーロ（約11.6米ドル）をモントリオール基金（MF）に寄付することで、モントリオール基金を支援することを決定しました。IRPA17の参加登録者数が目標の1,000名に達した場合、モントリオール基金には11,600米ドルを超える支援金が提供されます。さらに、参加登録者が増えれば増えるほど、より多くの若手参加者を支援できます！

モントリオール基金によるIRPA17参加者支援

IRPA理事会は、2026年9月初旬に北京で開催された会合において、モントリオール基金（MF）から総額50,000米ドルを拠出し、IRPA17への参加を支援することを決定しました。この支援は、発展途上国またはIRPA関連学会のない国の学生および若手放射線防護専門家を対象としています。応募資格、優先順位および申請方法に関する詳細は[IRPAウェブサイト](#)に掲載されています。また、同様の情報はIRPA17公式ウェブサイトおよび参加登録フォームにおいても提供される予定です。

IRPA 17
ENSURING RADIATION
PROTECTION FOR THE FUTURE



29 MAY - 2 JUNE 2028
VALENCIA • SPAIN

IRPA17 将来にわたる放射線防護の確保
2028年5月29日～6月2日 パレンシア（スペイン）



今後のイベント



**XIII Congreso Regional de
Seguridad Radiológica y Nuclear**

XI Congreso Regional IRPA

18 al 22 de Octubre de 2026
Centro de Eventos Fórum UPB
Medellín-Colombia

メデジン2026へようこそ

2026年10月18日から22日まで、コロンビア・メデジンにおいて以下の国際会議が開催されます。

- ・第13回放射線・原子力安全地域会議
- ・第11回ラテンアメリカIRPA会議
- ・イペロアメリカ放射線防護会議

本会議は「経験と未来」「技術と共感」「イノベーションと責任」を結び付けることを目的としています。

山々とコーヒー、科学と協働の地で、本会議は『守ることは、教えること、研究すること、共有すること、そして変革することでもある』と信じるすべての人々を結集します。

放射線防護から安全文化に至るまで、あらゆるテーマが対話、教育・訓練、そして協力をつなぐ架け橋となります。

今、これまで以上に

放射線防護にはコミュニティが必要です

そして、そのコミュニティは2026年にメデジンで集います



AFRIRPA

7th African Regional Congress of the
International Radiation Protection Association

 **FEB 2nd-5th 2027**

 **Argyle Grand Hotel
Nairobi Kenya**

CALL FOR *Abstracts*

We invite researchers, professionals, practitioners, students and all stakeholders to submit abstracts for presentation at AFRIRPA 2027.

ABSTRACT
DEADLINE

31
OCTOBER
2026

THEME AREAS

-  **A** Radiation Protection in Healthcare
-  **B** Radiation Protection in Industrial and other practices
-  **C** RADON and Naturally Occuring Material (NORM)
-  **D** Communication, Stakeholder Involvement and Capacity Building
-  **E** Radiation Protection in Non-Ionizing Radiation Applications

SUBMIT YOUR ABSTRACT HERE

 <https://afirpa.eaarp.co.ke/registration>



*Be part of shaping
a safer future
through radiation
protection!*

EAARP
Eastern African Association
for Radiation Protection

 **IRPA**
International Radiation
Protection Association



ニュース&行事の予定をお送りください!

共有したいニュースはありますか? 下記までお送りください:

cop@irpa.net

IRPA NewsとIRPA 会報でご紹介します。会報の記事は通常、200～300語の文章と画像で構成されます。

「学会紹介 (Society Spotlight)」欄では、関連学会からの最新情報を募集しています。貴学会の活動をお知らせください。会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも大歓迎です!

IRPA出版委員会:

IRPAコミュニケーションオフィサー: Dave Niven氏

会報編集部: Andrew Karam氏, Dave Niven氏

関連学会リエゾン: Michèle Légaré氏

ウェブサイト管理者: Dave Niven氏

ソーシャルメディアマネージャー: Sara Dumit氏 & Dave Niven氏



ほらね。この標識のおかげで
職場に早く着けるって、言っ
たでしょ。

